

2020年2月28日

## 上智大学中世思想研究所主催講演会

### 「キリスト教と動物：ヨーロッパ中世の想像界からの考察」

# 中止のお知らせ

昨今のコロナウイルス流行の現状に鑑み、2020年3月7日（土）に予定しておりました当研究所主催講演会「キリスト教と動物：ヨーロッパ中世の想像界からの考察」の中止を決定いたしました。ここに取り急ぎお知らせするとともに、皆様のご理解を賜りたくお願い申し上げます。

当該講演会のチラシ：



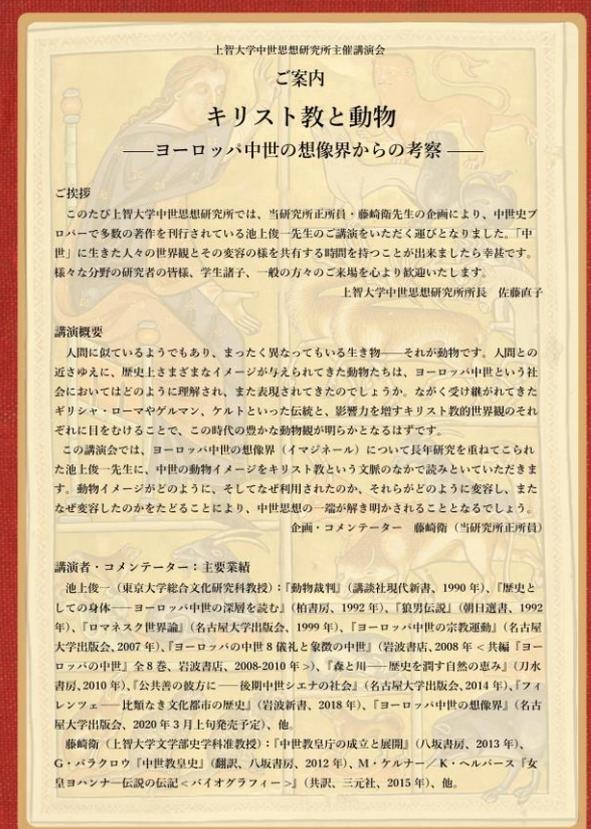
**キリスト教と動物**  
—ヨーロッパ中世の想像界からの考察—

上智大学中世思想研究所主催講演会

2020 3/7 Sat. 13:30 - 16:30  
会場：上智大学四谷キャンパス中央図書館9階 (L-911)  
事前予約不要・入場無料 開場 13:00

13:30-13:35 開会挨拶  
13:35-15:05 ご講演 池上 俊一 (東京大学)  
15:25-16:25 コメント 藤崎衛 (当研究所正所員)  
質疑応答 佐藤直子 (当研究所所長)  
16:25-16:30 閉会挨拶

連絡先：上智大学中世思想研究所 Tel：03-3238-3822 / E-mail：imdtght@sophia.ac.jp  
画像出典 The Aberdeen Breviary, Folio 5r: Adam names the animals. © University of Aberdeen.



上智大学中世思想研究所主催講演会

ご案内  
**キリスト教と動物**  
—ヨーロッパ中世の想像界からの考察—

ご挨拶  
このたび上智大学中世思想研究所では、当研究所正所員・藤崎衛先生の企画により、中世史ブローカーで多数の著作を刊行されている池上俊一先生のご講演をいただく運びとなりました。「中世」に生きた人々の世界観とその変容の様を共有する時間を持つことが出来ましたら幸いです。様々な分野の研究者の皆様、学生諸子、一般の方々のご来場を心より歓迎いたします。  
上智大学中世思想研究所所長 佐藤直子

講演概要  
人間に似ているようでもあり、まったく異なっている生き物—それが動物です。人間との近きゆえに、歴史上さまざまなイメージが与えられてきた動物たちは、ヨーロッパ中世という社会においてはどのように理解され、また表現されてきたのでしょうか。ながく受け継がれてきたギリシャ・ローマやゲルマン、ケルトといった伝統と、影響力を増すキリスト教的世界観のそれぞれに目をむけることで、この時代の豊かな動物観が明らかとなるはずです。  
この講演会では、ヨーロッパ中世の想像界（イマジネール）について長年研究を重ねてこられた池上俊一先生に、中世の動物イメージをキリスト教という文脈のなかで読みといていただきます。動物イメージがどのように、そしてなぜ利用されたのか、それらがどのように変容し、またなぜ変容したのかをたどることにより、中世思想の一端が解き明かされることとなるでしょう。  
企画・コメントーター 藤崎衛 (当研究所正所員)

講演者・コメントーター：主要業績  
池上俊一 (東京大学総合文化研究科教授)：『動物裁判』(講談社現代新書、1990年)、『歴史としての身体—ヨーロッパ中世の深層を読む』(柏書房、1992年)、『狼男伝説』(朝日選書、1992年)、『ロマネスク世界論』(名古屋大学出版会、1999年)、『ヨーロッパ中世の宗教運動』(名古屋大学出版会、2007年)、『ヨーロッパの中世 8 儀礼と象徴の中世』(岩波書店、2008年) 共編『ヨーロッパの中世』全8巻、岩波書店、2008-2010年)、『森と川—歴史を調す自然の恵み』(刀水書房、2010年)、『公共善の岐方—後期中世シエナの社会』(名古屋大学出版会、2014年)、『フィレンツェ—比類なき文化都市の歴史』(岩波新書、2018年)、『ヨーロッパ中世の想像界』(名古屋大学出版会、2020年3月上旬発売予定)、他。  
藤崎衛 (上智大学文学部史学専攻准教授)：『中世教皇庁の成立と展開』(八坂書房、2013年)、G・バラクロー『中世教皇史』(翻訳、八坂書房、2012年)、M・ケルナー／K・ヘルバース『女皇ヨハンナー—伝説の伝記』(バイオグラフィック) (共訳、三才社、2015年)、他。

上智大学中世思想研究所

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

Tel: 03-3238-3822 / E-mail: imdtght@sophia.ac.jp

URL: <https://dept.sophia.ac.jp/is/imdtght/>